

第81回 明科いいまちサロン「安曇野の水資源と地下水対策」

令和2年11月15日(水) 10:00~12:00
 於：明科公民館講堂

今月度の明科いいまちサロンは、環境問題を考えると言うことで「安曇野の水資源と地下水対策」と題し、安曇野市環境課 斎藤雄太氏を招き講演会を開催した。参加者は、20名程でいつもの通り検温、アンケート記入後会場に入り話を聞いた。途中で休憩時間を設け換気を実施してコロナ対策に対応した。



I 水資源とは

地球上の水
 (海水:約97.5%, 淡水:約2.5%)
 地球上の水の大半は海水で、残りの淡水もほとんどが水河。利用可能な河川などの水は、わずか0.01%しかないとされています。

地球上の水の0.01%
※World Water Resource at the Beginning of 21st Century, J.S.Chikamoto, and John O. Rodda,2000
 をもとに国土交通省水資源部作成。
 ※前年度内閣府の地下水は公表されていない。
 出典:国土交通省水資源部:日本の水資源014

風呂一杯に対してスプーン一杯分
 私たちが使える量

○人口増加や経済発展により、世界各地で水不足や水質汚染が問題に
 ○水の減少により生態系にも悪影響

I 水資源とは：地下水の価値（安曇野市）

安曇野市も地下水を資源として活用

公共水道は地下水100% (H27年度~)

塩素消毒のみで“おいしい”

「おいしい水」の要件※をすべて満たす『超軟水』
※厚生労働省

産業・観光・景観
 歴史・文化

地球上利用可能なみずは『0.01%』である

市公共水道は地下水『100%』である

II 地下水のしくみ：地下水はどのようにしてできるのか

安曇野の地下水の流れ

主に、西山からくる流れと南側からくる流れがある

その出口は、三川合流部にあり、松本盆地全体の表流水と地下水は、全て安曇野市の三川合流部に集まってくる

II 地下水のしくみ：地下水はどのようにしてできるのか

地下水のみなもと：『3つの涵養』

河川伏没 0.79億m³/年
 土地浸透 0.52億m³/年
 水田涵養 0.79億m³/年
※安曇野市内の推定量 (H26)

河川伏没が多い → 扇状地である松本盆地の特性
 水田涵養が多い → 水田面積が多い安曇野市の特性

地下水のしくみについて

当日の資料より

IV 地下水を次世代へ引継ぐために：市の取組
安曇野市地下水資源強化・活用指針(H24.8)

「安曇野ルール」

1. 地下水は市民共有の財産である
2. 全市民が地下水保全・強化に努め、健全な地下水環境を創出する
3. 地下水資源を活用し、豊かな安曇野を次世代に引き継ぐ



IV 地下水を次世代へ引継ぐために：市の取組
安曇野市水環境基本計画(H29.3策定)

「安曇野ルール」を踏まえ、格調高い計画を目指して策定
(計画期間：2017年～2026年)

コンセプト

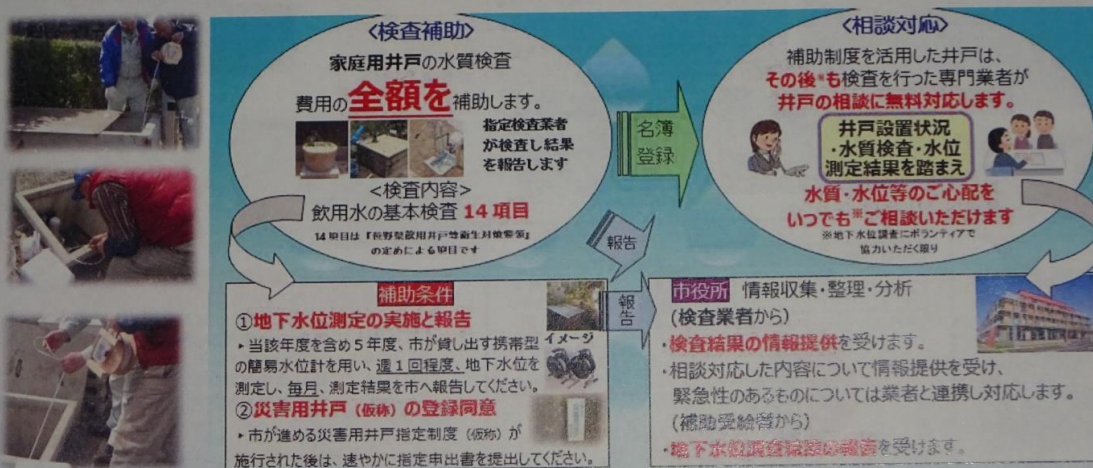
『水は、次世代からの預かりもの』



IV 地下水を次世代へ引継ぐために：市の取組（水環境基本計画）

①安曇野市ウォータープラン・サポート制度

水位測定ボランティア登録した方に水質検査費を補助



IV 地下水を次世代へ引継ぐために：市の取組（水環境基本計画）

②普及啓発活動（イベントの開催）

